

2023年度公開講座 「核時代における非戦」

第4回 「忘却に抗うメディアの役割—ビキニ水爆被災70周年に寄せて—」

2024年3月23日（土）13:00～15:00

日本パグウォッシュ会議、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会およびPRIME（明治学院大学国際平和研究所）の三者は、2018年以来、市民に開かれたシンポジウムを共催してきました。包括的テーマは、当初の「核の脅威削減に向けて」から「パグウォッシュ会議と『非戦』の思想」、そして現在の「核時代における非戦」に変わりましたが、貫くものは、人類共滅を防ぐための、核廃絶と戦争放棄という、ラッセル＝AINシュタイン宣言に示された理念です。特に今年度は、昨年来のウクライナでの戦争が収まらぬなか、核大国による国際法無視の武力行使という、私たちの理念に真っ向から挑戦するような現実が、目の前で展開しています。終末時計が、核時代が始まって以来、もっとも真夜中に近づいているのです。奈落の淵から引き返すため、私たちは、科学的知見に基づいて、新たな展望を社会に提供することをめざします。市民と科学者、宗教者が理性的に対話する場をひろげて、核兵器廃絶と非戦の道を歩む思想と運動を、一層豊かなものにしていきたいと願っています。

目的と趣旨

本講座は、自然科学・人文社会科学の垣根を超えて、多様な分野の科学者が語るとともに、市民と科学者、宗教者が活発に意見交換・交流することによって、日本社会における「平和」や「非戦」をめぐる議論と運動を豊かなものにしていくことをめざします。1954年米水爆実験によって第五福竜丸が被災したことにより、放射性降下物の危険性が世界中に伝わり、ラッセル・AINシュタイン宣言、パグウォッシュ会議の発足、そして原水爆禁止運動へとメディア、研究者、そして市民によって大きな流れが作られました。その一方で、核による被災の実態は隠され、忘却されてきました。ビキニ水爆被災70周年にあたり、隠されてきた「ちいさなかなしいじじつ」を報道してきたジャーナリストの金平茂紀さんをお招きし、メディア、研究者、そして市民が忘却の流れにどのように抗うのか、お話しいただきます。

プログラム（敬称略）

司会兼コメンテーター 高橋博子（奈良大学教授）

13:00 開会

共催者代表挨拶 神谷昌道（WCRP日本委員会STOP!核依存タスクフォース委員）

共催者代表挨拶 栗田頴子（日本パグウォッシュ会議副代表世界パグウォッシュ会議評議員）

13:10 講演：「忘却に抗うメディアの役割—ビキニ水爆被災70周年に寄せて—」

金平茂紀（ジャーナリスト）

14:05 コメント

14:15 質疑応答

14:55 共催者代表挨拶 阿部浩己（PRIME所長、明治学院大学教授）

15:00 閉会

プロフィール（敬称略）

<講演>

金平茂紀（かねひら・しげのり） ジャーナリスト

早稲田大学大学院客員教授。沖縄国際大学非常勤講師。1953年北海道旭川市生まれ。1977年TBS入社。以降同局でモスクワ支局長 ワシントン支局長「筑紫哲也 NEWS23」編集長 報道局長などを歴任。2010年より「報道特集」キャスター。2022年9月でレギュラー退任。以降同番組の「特任キャスター」に。2004年度ボーン上田記念国際記者賞受賞。2022年度外国特派員協会「報道の自由賞」受賞。著書に『沖縄ワジワジー通信』『筑紫哲也NEWS23とその時代』など多数。翻訳書に『じじつは じじつ ほんとうのことだよ』。

<コメント・司会進行>

高橋博子（たかはし・ひろこ） 奈良大学文学部教授

PRIME研究員、日本パグウォッシュ会議運営委員。専門は、日米関係史、グローバルヒバクシャ研究、太平洋核実験。博士（文化史学）（同志社大学）。著書に、『新訂増補版 封印されたヒロシマ・ナガサキ』（凱風社、2012）、『核の戦後史』（共著 創元社、2016）、『核と放射線の現代史』（共著 昭和堂、2021）、Living in a Nuclear World From Fukushima to Hiroshima（共著 Routledge: London, 2022）等。

<共催者代表挨拶>

神谷昌道（かみや・まさみち） WCRP 日本委員会 STOP！核依存タスクフォース 委員

米国タツツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程修了。1998年10月から2002年3月まで、広島市立大学広島平和研究所・特別研究員として、核軍縮の政策提言に携わる。現在、アジア宗教者平和会議（ACRP）シニアアドバイザー。著書に『21世紀の核軍縮-広島からの発信』（共著）（2002 法律文化社）等。

栗田 稔子（くりた・よしこ） 日本パグウォッシュ会議副代表 世界パグウォッシュ会議評議員

中東現代史専門。千葉大学文学部教授。主要著作に『中東』（編著）、『戦後世界史』（共著）、『近代スーサンにおける体制変動と民族形成』（いずれも大月書店）等。

阿部浩己（あべ・こうき） 明治学院大学国際平和研究所(PRIME)所長

明治学院大学国際学部教授。専門は、国際人権・難民法。主な著書に、『国際法を物語る I~IV』（朝陽会、2018~2021年）。『国際法の人権化』（信山社、2014年）、『国際法の暴力を超えて』（岩波書店、2010年）等。